

# 2020年9月20～22日

## ～ササ食い幼虫を探す～

「北海道の蝶」の「楽しい生態観察のすすめ」でも紹介しましたが、ササを食べる幼虫を探してみました。対象種は珍種や美麗種ではありません。ジャノメやセセリの全く地味なチョウ。この時期ササを見るとどうしても、その食痕を頼りに探してみたくくなります。雪が降る前に一生懸命ササを食べています。今年も富良野周辺のマイ・フィールドで探してみました。



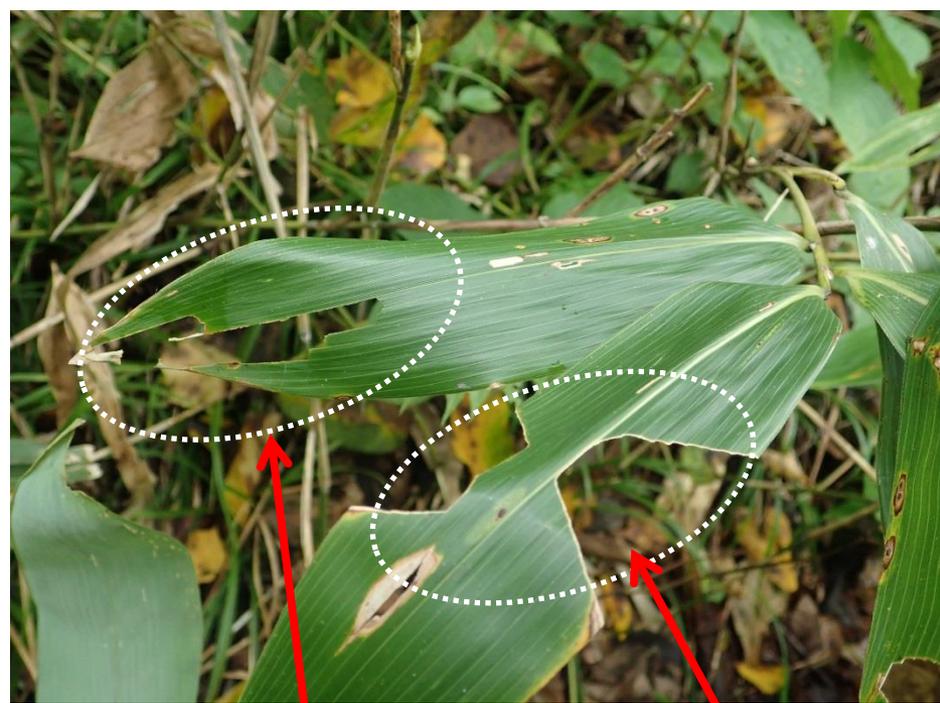
9月20日：布部林道



富良野のマイ・フィールドの一つ麓郷街道沿いにある林道。春はヒメギフ、初夏はオナガアゲハ、夏はオオイチやキベリなどが見られます。

林道に落葉がちらほら落ち始めた林道を歩く。視線は両脇に広がるササ群落。葉に蝶の食痕は無いかな・・・？。

まず目に入ったのは、クロヒカゲの食痕。今年は雪が少なく越冬中に葉が寒風にさらされかなり枯れてしまったことが原因か成虫の数は少なかったが、いつものように一番見つけやすいものでした。ササの葉にはいろいろな食痕がついていますが、慣れてくると、食痕の形でこれはクロヒカゲ、これはヒメキマダラヒカゲなどと判別できるようになります。ではクロヒカゲから見つけ方を紹介します。



この葉の先端から少し階段を作って細く伸びた食痕は間違いなくクロヒカゲです。



これは違います。たぶんヨシカレハという蛾の古い食痕でしょう。

葉の裏をめくってみると、いました。2齢幼虫です。

クロヒカゲは、越冬前のこの時期には1～3齢の幼虫が見つかります。齢を重ねるごとに食痕の形や大きさが変わっていきます。慣れてくると、食痕の形で幼虫の大きさ(齢数)も推定できます。まず1齢幼虫です。



やや先端に近い葉の縁から葉脈を残しながら階段状に食べた食痕は1齢幼虫です。



普段は中脈上に静止しています。食痕まで辿る白い吐糸を張り付けた白い道がついています。

ちょうど摂食中でした。1齢幼虫の頭は黒いので他の幼虫と区別できます。

次に2齢幼虫です。1齢の食痕を広げる場合と、少し移動して食べ始める場合があります。これはそのまま食い拡げている例。

この部分は1齢幼虫の食痕。切り口が枯れはじめ白っぽくなってきている。

こっちは2齢の食痕。切り口は枯れていない。

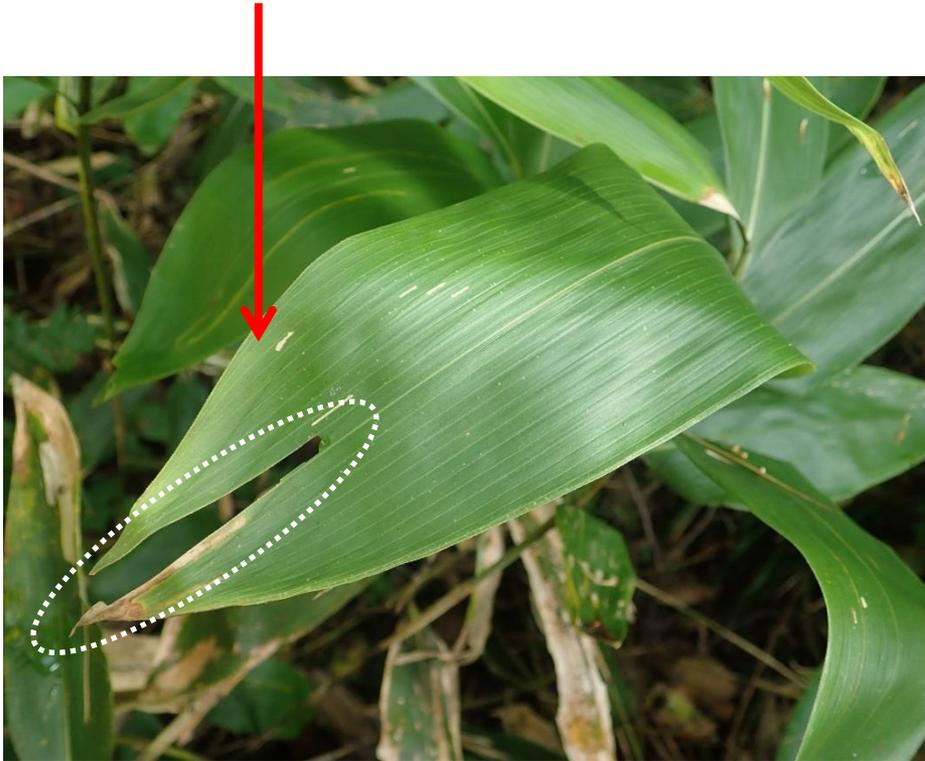


葉をひっくり返すと、裏の中脈上で休んでいる2齢幼虫がいた。

1齡から脱皮して、少し移動して食べ始める場合は葉の先端部分から縦長の食痕を残すことも多く見られます。

この縦長の食痕はクロヒカゲ独特のもの。

2齡になったばかりの幼虫だった。



このササの一株にはクロヒカゲの食痕がたくさんついていました。食痕の形をよく見て幼虫の大きさ(齢数)を推定してみましょう。

1齢の食痕ですね。



《移動してきた2齢幼虫の食痕？》

《1齢と2齢の複合した食痕》のようです。

裏返して見ると……。《移動して作られた食痕？》にはみられず。《1～2齡複合食痕》の葉の基部に2齡がいました。





このササには食痕が2か所ありますね。  
葉の裏を見てみると・・・。

茎の根元の小さな葉の裏にいたのは3齢幼虫でした。越冬幼虫の齢数は2～4齢で、1齢では死んでしまいます。3齢から褐色タイプもでてきて枯葉に静止するようになります。





ササ食い幼虫を続けていると、特徴的な食痕に出会いました。葉の葉脈がスダレ状に残った食痕です。

この特徴はヒメキマダラヒカゲに違いありません。





葉を裏返して見るとすだれの隣の葉の中脈に7頭が1列に並んでいました。



2頭のくっつき方は、頭向きあわせと尾端と頭の2パターンがありますが、くっついていないとだめ見たいです。



頭と頭



尾端と頭

やっと見つけました！ササ食い幼虫の3種類目の登場です。一見、クロヒカゲ1齢幼虫の食痕に見えますが、葉の縁がめくれているのがわかりますか？近寄って見ます。



この部分が折り曲げられています。これはどうなっているのでしょうか？



葉を裏返して見ると特徴的な巣が見えました。オオチャバナセセリの越冬巣です。幼虫は夏の終わりに孵化しますが、すごく小食で、食痕はこのくらいしか広がらず、このまま冬を越します(2齢)。来年も観察したいのでピンクテープをつけておきました。この日は3つ発見。

ときどき見つけたと思って中を少し開けると、蛾の幼虫がクネクネ出てくることがあります。吐糸による巣の綴り具合を、よく見ると違いが分かります。蛾の糸の方がまばらで適当に見えます。



よく間違える蛾の巣

9月21日：望岳台遊歩道



天気がいいしナキウサギでも見に行くかと出かけたのだが、ここでもササ食  
い幼虫が気になってしまった。ヒメキマがたくさんいたので紹介します。  
(ちなみに北海道の蝶p.183のイチモンジチョウの越冬巣はここで撮影しま  
した。標高930mの亜高山帯です。)

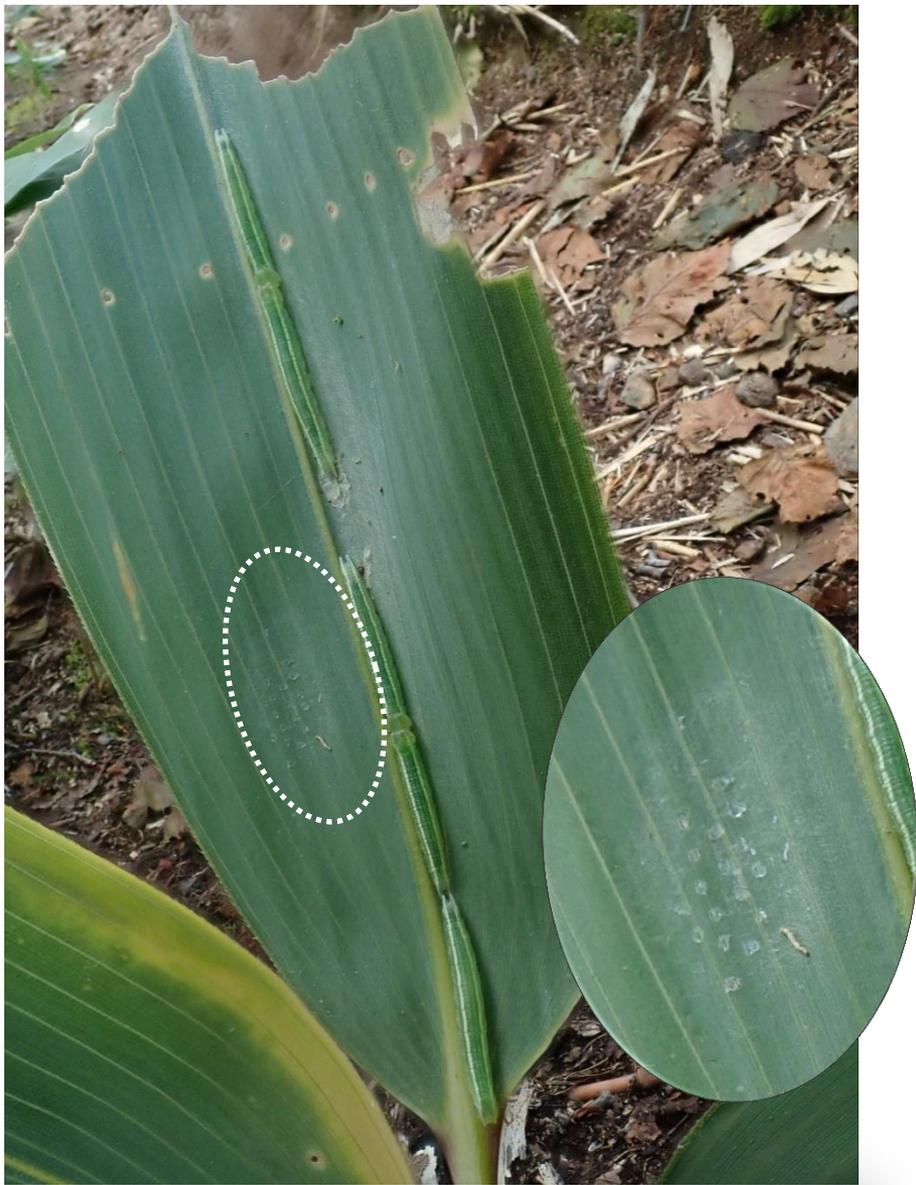


ヒメキマの若齢の食痕が2か所あります。葉の裏を見ても集団はいません。数か所にばらけて生活していました。こういうこともよくあります。



この2齢は単独です。食痕は横から伸びる形が多いです。ちょうど食事中、アップで見ると結構かわいい。





ここには3齡の5頭の集団。卵が並んでいた跡が見えます。15, 6個くらいの卵塊だったようです。



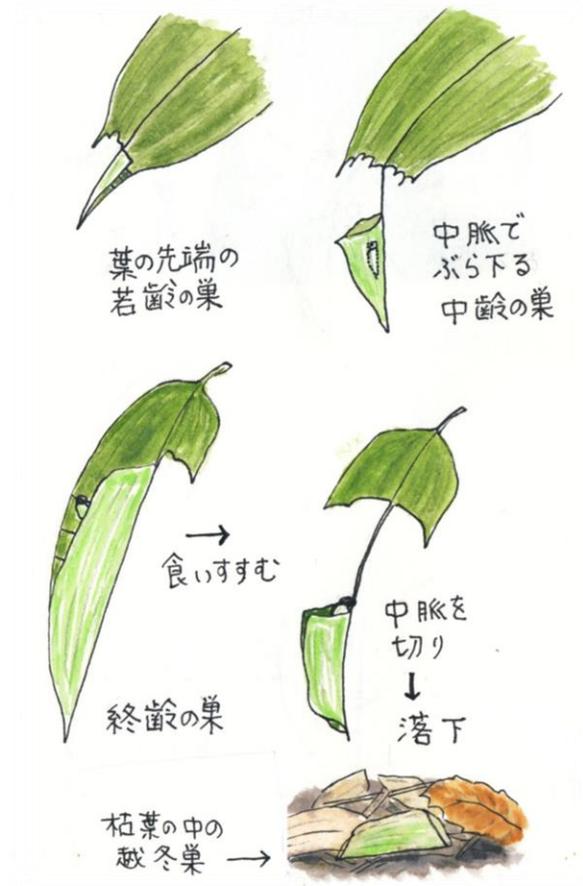
ここには2齡が2頭と3齡の単独がいます。3齡までは集団を維持しますが、何かの刺激でぱらぱらと落ちてしまうことがあり、そうすると集団はばらけます。雪の下での越冬後はバラバラになってしまいます。

9月22日：鳥沼公園



我が家のごく近所の道端にアカマダラの幼虫集団がいたので、鳥沼公園に本格的に探しに行く。だがしかし、アカマダラ幼虫は見つからず、例によってササ食い幼虫探しに変更。ねらいはコチャバナセセリの越冬巣。

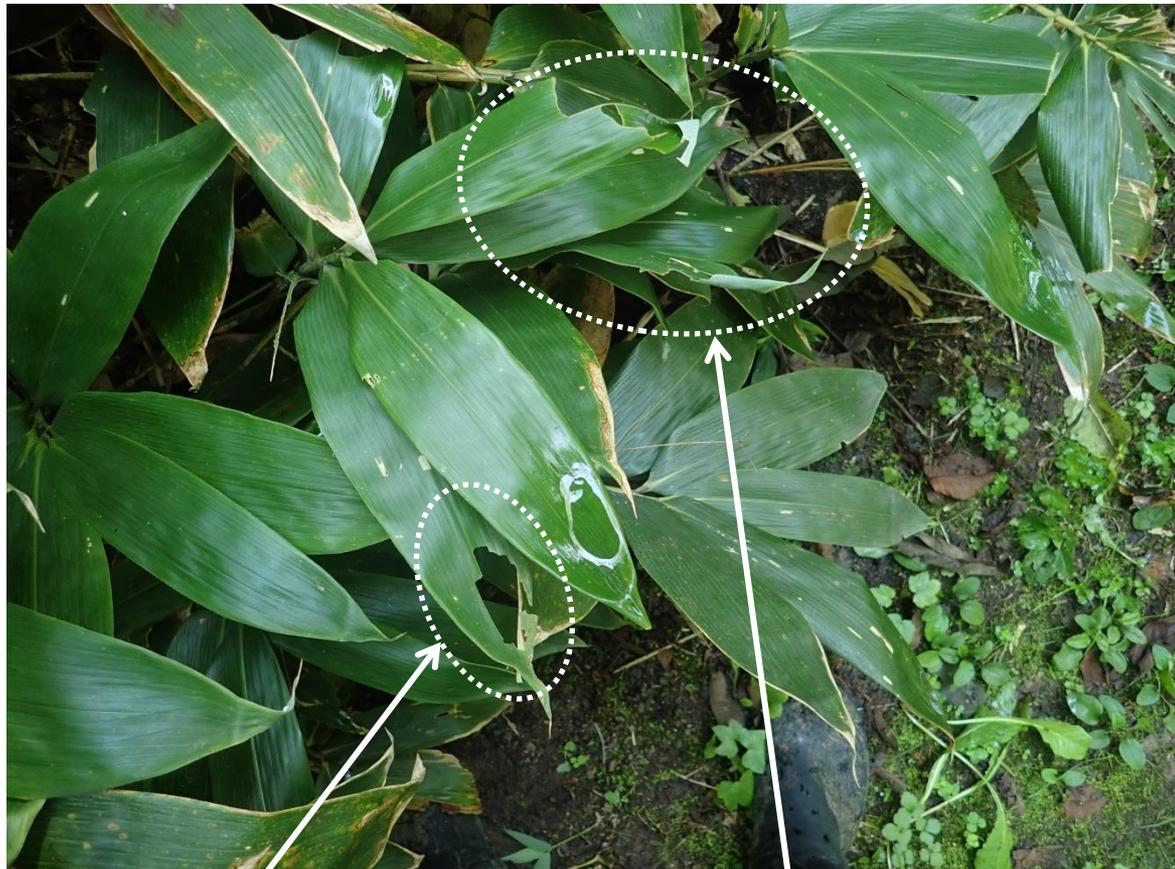
基本事項:コチャバネセセリの巣の変化(北海道の蝶から)



今回は落下した越冬巣を探そうということ。幼虫が切り落とした巣を適当な越冬場所まで運ぶようで、遠くまで持って行くとどんどん見つかる確率は低くなる。食痕の株の下を丹念に探すしかない。はいつくばって探していると、時々何か落としましたかと声を掛けられるので、人目がない方が安心なのだ。



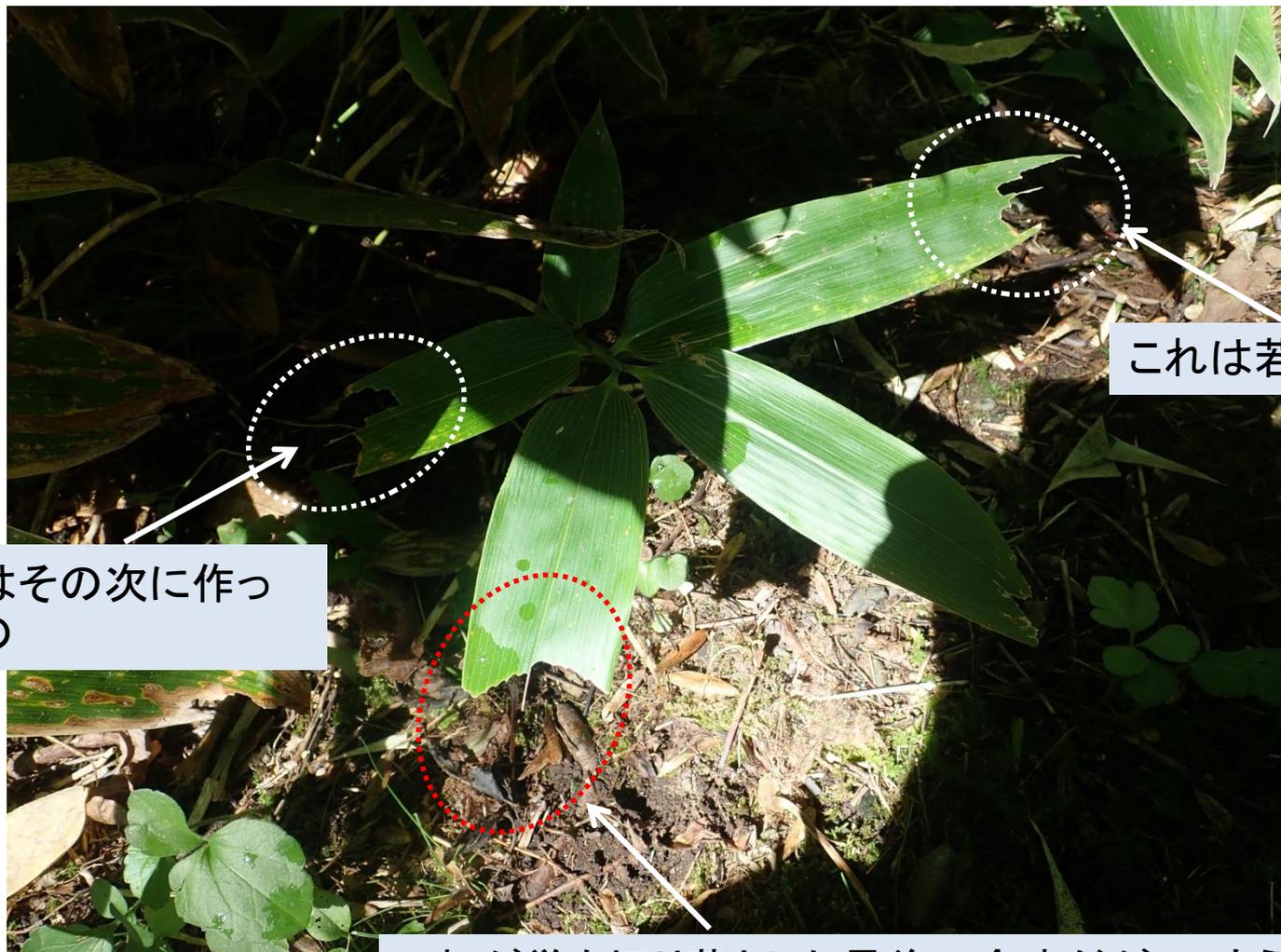
ヒクロヒカゲの♂が陽だまり  
で日光浴。



ここにクロヒカゲの食痕。

ここに使い古されたコチャバネの  
巣。途中で死んだみたい。

このような食痕シリーズがコチャバナネセセリのもの。



これは若齢時のもの

これはその次に作ったもの

これが巣を切り落とした最後の食痕だが・・・もう1回くらい巣を作りかえるはず。いちおう切り落とされた越冬巣を探してみるが見つからず。

探し始めて30分。ようやく越冬巣を発見。この瞬間がたまらない。



すこしふくらんだ封筒型。この形を目当てに探す。切り落とした直後は葉が新鮮なので周囲の枯葉より白っぽいので見つけやすい。この巣はちょっと古そうだ。

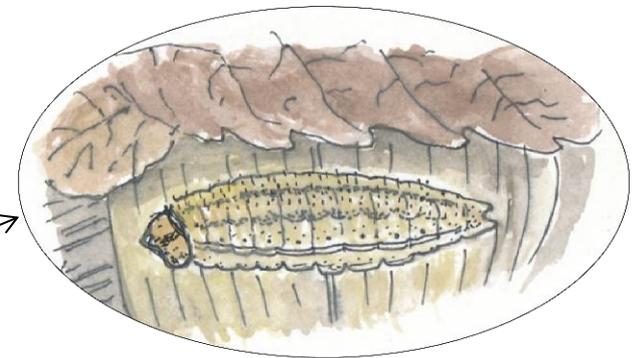
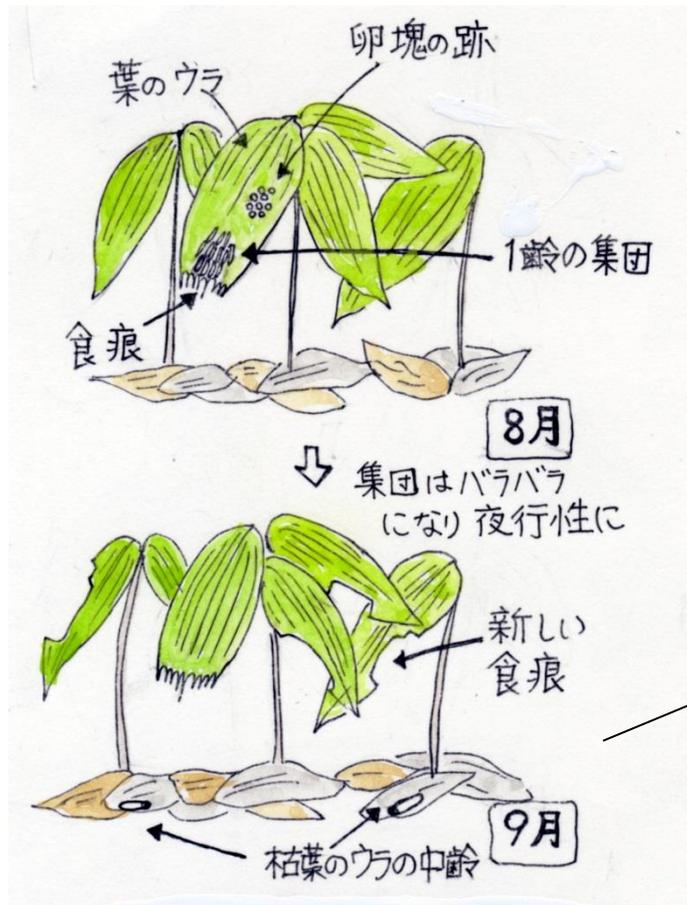
持ち帰って、中を確認してみると・・・。



枯葉色になった終齢幼虫が入っていました。封筒の幅の広い方を向いて眠っています。翌春この中でサナギになり、この広いほうから出てくるのでしよう。空けた封筒を糊付けでもとにもどし保管することに。

# 以上、ササ食い幼虫探しの巻きでした。

なお、今回この3日間ではサトキマダラヒカゲ・ヤマキマダラヒカゲは見つかりませんでした。成虫の数も少なかったようで、それらしき食痕が見つかりませんでした。あしからず。



T, Nagamori